

# 人と人をつなげる家庭教育支援 ～「らびっと」と「ぶらんこ」・2つの取組による支援のひろがり～

子育てサポーター「らびっと」と家庭教育支援チーム「ぶらんこ」(宮城県亶理町)

## はじめに

家庭教育支援チームは、平成20年度地域における家庭教育支援基盤形成事業実施から継続している。

本町でも、核家族化の進行などにより、子育ての不安や悩みを抱えながら誰にも相談できず、孤立した中で子育てをしている親が多くなってきているという現状があった。そこで、子育てサポーター「らびっと」を組織し、支援チーム活動の一つとして子育て中の親などが気軽に集い、子育てサポーターや同年齢の子育て中の人に不安や悩み等の問題を話すことでそれらを解決・解消したり、子育て中の思いを共感しあえる仲間をついたり、情報交換やリフレッシュできる場として子育てサロン「ピープル・ツリー」を開設した。

一方、子育て・家庭教育にかかわる情報発信や他の様々な講座等も子育てサポーターの積極的な活動の場とした。

さらに、平成23年度は、町内の小学校との連携に活動の重点をおくため、「らびっと」に加えて、家庭教育支援チーム「ぶらんこ」も活動を開始し、小学校の保護者会などを利用して保護者の学習の機会を設けるなど、家庭教育支援に取り組んでいる。また、学校側からの要望や親たちのニーズを知るうえでの大きなパイプ役になることを目指している。

「らびっと」と「ぶらんこ」という2つの取組により、町としての家庭教育支援の幅が広がっている。

## 主な活動

### 子育てサポーター「らびっと」

#### ①子育て支援事業「あそびの広場」

- ・仮設住宅の集会所において、親子が集える場、子どもが安心して遊べる場を提供する。
- ・4箇所の集会所で週1回ずつ実施する。

#### ②子育てサロン「ピープル・ツリー」の運営

- 開催日：月1回第1金曜日
- 会場：中央児童センター
- ・町内の子育て情報を提供する。
- ・子育て中の人に自分の経験談等を伝え、つながりをもつ。
- ・「遊びタイム」の中で子育てに使えるおもちゃ作りを提案したり、紙芝居を見せたりする。

#### ③子育て支援現場への人材派遣

- ・学習講座時の子どもの見守り
- ・育児サークル等のお手伝い

### 家庭教育支援チーム「ぶらんこ」

#### ①家庭教育支援事業「学社融合講座」

- ・保護者会などを利用して、子どもが身につける基本的な生活習慣や親としての心得を学んでもらう「親の学び支援セミナー」を実施。
- ・親や学校が必要としているニーズ吸い上げのパイプ役など。



大型絵本の読み聞かせの様子



自由遊びの様子



新聞紙を使った「ボンボンよーよー」作りの様子



玄関に置く立て看板

## あれから…

3月11日、私は家庭教育支援基盤形成事業の精算業務を行っていた。突然同僚が「緊急地震速報が入った」と焦った口調で言い放ったので、慌てて外へ飛び出した。揺れはかなり長かったように思う。庁舎前の屋根瓦や蔵が音をたてて崩れた。地震の揺れが収まるとすぐ、緊急時のマニュアルに添って避難所開設に動き出した。大津波警報が出ていてもまだ信じられなかったが、沿岸部ではもう大津波が来ているということだった。

あれから3ヶ月間、小学校体育館の避難所で勤務してきた。そこには、児童・生徒がいる、家族がいる、様々な世代が暮らしている。まさに家庭教育支援のニーズを知ることができる格好の場だと、いろいろ勉強させていただいていた。

その頃は、報道でもあったように本町の沿岸部が相当な被害を受け、職員が一丸となり復興を第一に掲げ動いていたので、平成23年度に予定していた家庭教育支援チームの事業実施もままならない状態であった。しかし、メンバーの中には、個々に子育てサポーターとして今支援できることを模索している方々がいることを大変心強く感じていた。そして、私は次のことを学んだ。

### ・支援のあり方

避難所では多くの方から支援をいただいた。中でも特に人気が高かったのは、「整体」「マッサージ」や「医療」など体に関することだった。それから、単発で行われる「物作り講座」も好評だった。一時でも辛い体験を忘れて何かに没頭できる時間があるのはいいものだと感じた。また、集団生活がしやすいように話し合いで給食係、衛生・保健係と係を決めていた。一見大変そうだが、各々に仕事があることで自分の居場所になっているように見えた。支援する際には、何かしらの役割をもつていただくことが大切だということ学んだ。

### ・人と人とのつながり

仮設の洗濯棟が、お母さん方にとって格好のコミュニケーションの場になっていた。コミュニケーションを図りやすくするためには、まず皆が集まる場所(できれば作業する場所)を提供すること。そこで共通の話題ができ、発展して、他の話題へと広がっていくのだと思った。

### ・「子ども」の存在

避難所でも、子どもの笑顔は皆を元気にしてくれた。長期間に及ぶ避難生活だったゆえ子どもたちも慣れ、他の家族に混じってにこにこ顔の子がたくさんいた。

### ・母親の心のケア

あるお母さんが話をしていた。「雨の日は嫌なのよね。津波が来たときの音を思い出すから・・・」実際に体験した方でないとわからない恐怖だ。少しでも寄り添いたいと思い「うんうん」と話を聞いていた。そして、母親の心のケアも必要だと強く感じた。専門的な機関も動いてくださっていたので、私たちはただ傾聴する機会を多く持つことだと思った。

そして、7月半ばより、家庭教育支援チームなどの取組を再開することができた。

これから、震災前と同じように、それ以上に親子が明るく前向きに子育てを続けていけるような環境を作るため、家庭教育支援を模索し実行していきたいと強く感じている。

(巨理町教育委員会生涯学習課生涯学習班)



小学校での『親の学び支援セミナー』の様子

**チーム名:** 巨理町子育てサポーター「らびっと」

**活動開始:** 平成20年4月～

**活動人数:** 17人

**どのような人が活動しているか:** 子育てサポーターリーダー、子育てサポーター

**チーム名:** 巨理町家庭教育支援チーム「ぶらんこ」

**活動開始:** 平成23年7月～

**活動人数:** 19人

**どのような人が活動しているか:** 子育てサポーターリーダー、子育てサポーター、主任児童員、保健師、保育士、栄養士

**団体住所(連絡先など):** 巨理町教育委員会 生涯学習課  
宮城県巨理町字旧館61-22 TEL: 0223-34-0510